



**著者：N.T. ライト (Nicholas Thomas Wright)** 1948 年生まれ。オクスフォード大学で学ぶ。ケンブリッジ、オクスフォード、セントアンドリュース等で教える。2010 年まで国教会ダラム主教も務めた。現在オクスフォード大学ウィクリフホールの上級研究員。「パウロへの新たな視点」と呼ばれる新潮流を精力的にリードしている。

**訳者：前川裕 (まえかわ ゆたか)** 1970 年生まれ。関西学院大学理学部准教授・宗教主事。日本キリスト教団正教師。専門は新約聖書学（本文批評・文学批評研究・福音書）。

## 新しいパウロ

N・T・ライト [著] / 前川裕 [訳]

12月22日発売

◆四六判・325頁・定価2970円

### 新しい視点から読み直す新しいパウロ

パウロは、ユダヤ教の唯一神信仰、選民思想、終末論をどう再定義したのか。その真の新鮮さとは何だったのか。

パウロの福音理解をローマ帝国という政治的背景をも視野に入れながら新鮮な目で読み直し、個人的な救いに偏した信仰義認論・贖罪論中心のパウロ像を塗り替え、彼が宣教した創造と契約と終末、神とその民の壮大なストーリーを蘇らせる。

## 新約聖書と神の民

キリスト教の起源と神の問題 1

N・T・ライト [著] / 山口希生 [訳]

ライトの名著。イスラエルのストーリーの中で新約聖書を生んだ原始教会の神学を読み解く。

上巻・定価7040円  
下巻・定価4070円

### 【目次より】

第一部 パウロの主題

第1章 パウロの世界とパウロの遺産

第2章 創造と契約

第3章 メシアと黙示

第4章 福音と帝国

第II部 パウロ思想の構造

第5章 神について考え直す

第6章 神の民を造り直す

第7章 神の将来をイメージし直す

第8章 イエスとパウロ、

および教会の働き

## 宗教活動におけるマイクロアグレッション

サンダース&ヤーバー著／真下弥生訳  
キリスト教会の日常に潜む暴力と向き合う  
米国教会の実例に即し、加害の実態と構造を具体的に考察し、教会が誰にとつても安心できる包摂的な愛の共同体として自己変革していく方途を模索する。

◆四六判・定価2950円

## 見知らぬ神の跡を辿つて

新約聖書とギリシア・ローマ世界

川島重成著

神とは、人間とは何ものか。根源的な問いをめぐる西洋精神の二源流Ⅱ聖書とギリシア・ローマの対話を希求する18の講演とエッセイ。

◆四六判・定価3300円

## 神学と社会理論

世俗的理性を超えて

ジョン・ミルバンク著／原田健二朗訳

古今の思想と活発に対論し教会の重要性を新鮮な形で提示、衝撃を与えたポストリベラル神学の「ラディカル・オースドキシ」。現代の古典の待望の邦訳。

◆A5判・定価9350円

## イザヤ書注解Ⅱ

11―27章

ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳

改革者はヘブライ語の深い知識に基づいて預言書と真剣に取り組み、あくまでもキリスト中心に読み解こうとする。全5巻。

◆A5判・定価8470円

## マルティン・ニーメラー

ヒトラーに逆らった牧師

マシュー・ハネス著／穂田信子訳

Uボートの艦長から愛国主義的な牧師へ、ナチ党支持者から強制収容所の囚人へ、教会改革の指導者から平和運動の旗手へ。その激動の生涯を描く最新評伝。

◆四六判・定価4400円

### 2026年のカレンダー

## 渡辺禎雄版画カレンダー

## 2026年版発売中

絵柄は、「エルサレムのキリスト」を描いた1981年の作品。エルサレム入城、洗足、最後の晩餐を絵巻物のように収めたみごとな大作です。

教会やご家庭に、また贈り物に最適。定価660円



ミロスラフ・ヴォルフ著／彦田理矢子訳

## 排斥と抱擁

アイデンティティ・他者性・和解についての神学的探求

異質な者を憎悪し、殺し、排斥しようとする者を、私はどのようにして愛し、抱擁することが可能なのか。暴力が猛威を振るう世界の中で和解の道はあるのか。凄惨な内戦を経験したクロアチア出身の著者は、この問題を探求した本書（1996年）を、自らの知的葛藤の記録であると同時に霊的旅路の記録とも呼ぶ。『クリスチャニティトゥデイ』誌が「20世紀で最も影響力のある100冊」に選んだ書の待望の邦訳。

A5判・予価7700円

ジョン・ディア著／志村真訳

## 道を歩む

十字架と復活に向かう  
非暴力のイエスに従って

レント（受難節）の40日間の黙想を導く書。ガリラヤからエルサレムに至る非暴力のイエスの旅路に思いを潜め、平和の贈り物を私たちに与えた「道」の示す福音的な生き方を学ぶ。著者はアメリカにおける平和活動家として著名なカトリック神父。

四六判・予価2200円

ヴォルフハルト・パネンベルク著／佐々木勝彦訳

## 組織神学 第二巻

邦訳全三巻がついに完結。この第二巻では、創造論、終末論、人間学、キリスト論、和解論が独特無比な仕方で開催され、20世紀の後半における最大の組織神学的収穫であるパネンベルクの体系の、中核と全貌がここに明らかとなる。

A5判・予価9000円

● 11 月に出た本と雑誌

## ディートリヒ・ボンヘッファー

抵抗に生きた神学者  
クリスティアーン・ティーツ著／橋本祐樹訳



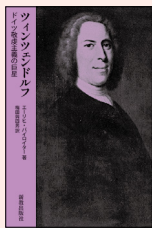
ドイツにおけるボンヘッファー研究の新世代をリードしてきた著者による、簡潔にしてバランスのとれた評伝であり、ボンヘッファーへの入門書として最適。

◆四六判・定価2640円

## ツインツェンドルフ

ドイツ敬虔主義の巨星

エーリヒ・バイロイター著／梅田與四男訳



神秘主義と正統ルター派神学の両者を継承し、多くの賛美歌を作詞し、民衆のための「心の神学」を唱道したその生涯を、豊富な図版と共に描く。

◆四六判・定価2750円

## 福音と世界

12月号

特集Ⅱ差別に抗するとは

多様性の尊重が権力への抵抗か

◆定価660円

特集寄稿…上野玲奈、平良愛香、麗梨 Rena、吉岡卓、

孫裕久、新免貢

追悼 田川建三氏（辻学）／書評 大貫隆『福音書の隠れた難所』（澤村雅史）／連載 富田正樹、戒能信生、福嶋揚ほか

販売部から

ボンヘッファーに関する書籍は数多く、入門書は僅かに思われます。その分野の専門家、或いは専門の水準に達している読者を対象にしているからでしょう。故に、用語や言い回しが専門的に思われます。しかし、『ディートリヒ・ボンヘッファー』（クリスティアアーネ著、新教出版社）は入門者を対象とし、予備知識をあまり要求せず、ボンヘッファーの生涯や思想などを概観できると思われまふ。特に印象に残った箇所はボンヘッファーにとつて重要であるのは、他のキリスト者の交わりが人間的な交わりのためではなく、イエス・キリストのために求められるということである」（120頁）で

■立ち読みコーナー■（近刊書からときどき紹介します）

パウロは自身の旧約聖書理解および默示的な図式理解を踏まえて、ローマ帝国を目下の強大なこの世的勢力と見なしたに違いありません。自らのローマ市民権を、この特別な働きを彼が行えるようにした神からの逆説的な贈り物と考えたようです。そしてパウロは自身の働きを、異なった帝国、つまり異なった種類の帝国の夜明けを告げる集団、小さいけれども重要な旗を掲げ、皇帝が主である世界において、主なるイエスに忠実な小集団を立ち上げるものと見なしていたのでしょう。

N・T・ライト著『新しいパウロ』（12月22日刊）より

す。教会はキリストによつて立てられており、この土台からその交わりを形成すること、また教会は閉鎖的な自己目的ではなく「世のための教会」となるための革新を形骸化させてはならないことを述べていると思われる。ボンヘッファーは、政治的抵抗運動への参与に至るまで一貫してナチズムに反対、また自身が直面した政治的・個人的な挑戦の中で自らの神学を幾度も検証し、独自に展開させた神学者として、今日まで人々を魅了しているのかを知る良い機会です。是非お手にとつてお読みください。（坂谷内）

# 福音と世界

2026年  
1

A5判・80頁・定価660円・送料70円  
年間予約購読料（送料共）8760円

特集 キリスト教保守とは何か

——その歴史と動向

なぜ福音派はハーバード大学を嫌うのか

「米国の信仰と高等教育の現在地」——木村 智

保守的キリスト教徒の文化と宗教映画・ドラマの新展開

佐藤清子

分断を超えて——ファンダメンタリストとモダニ

ストの対立における「第三の道」の再評価

藤野雄大

非米国型の福音派——英国国教会における

「福音派」の今——藤野雄大

キリスト教ボストリベラリズムとは何か

——英米保守思想の新潮流——原田健二朗

右派ポピュリズムとドイツのキリスト者

吉田 新

「展望」変わる新約文書の順番

「書評」 ユンゲル『世界の秘密としての神』——辻 学

「好評連載から」

◆「山上の説教」を読む 4 陶山義雄

◆人物・日本キリスト教史 7 戒能信生

◆ばやき牧師のさすらい説教録 10 富田正樹

◆異端者の世界航海 10 福岡 揚

◆証言としての旧約聖書 21 田島 卓

◆八木重吉の聖書 30（最終回） 今高義也

◆私は告白する、私の神を 34 長尾 優

◆新約釈義 ルカ福音書 49 山崎ランサム和彦